研究指定校名　：　鳥取市立高草中学校

１．学校の概要

学校名	鳥取市立高草中学校
学級数	１３学級（うち特別支援学級：３学級）
児童生徒数	全生徒数：２９０人（平成３１年１月３１日現在）
ＵＲＬ	http://www.torikyo.ed.jp/takakusa-j/

２．調査研究のテーマ

（１）調査研究のテーマ

互いを尊重して進んで学びあい、自分の未来を切り拓く生徒の育成

～「授業のユニバーサルデザイン化」の視点を活かした授業づくり、環境づくり～

（２）調査研究のテーマを設定した背景

本校の生徒の課題として、「自尊感情が低い」「将来への夢や目標が持てない」「学力が低い」などが挙げられる。また、教育的な支援を必要とする生徒や発達障がいのある生徒も高い割合で各クラスに見られる。そのため、『まなざしを共有し、夢と目標を持って努力する生徒の育成を目指して』という研究テーマを掲げ、学ぶ意欲の向上と習慣化を目指して研究を進めてきた。しかし、様々な問題を抱える生徒の実態の中で、なかなか成果を上げることができず、落ち着いて授業に取り組んだり、学校生活で望ましい人間関係を築いたりすることが困難な現状がある。また、教師の授業もこのような生徒達の実態に必ずしも対応したものとはなっておらず、授業者によって生徒の授業態度や学習成果にばらつきが見られた。

自分に自信がない、チャレンジ精神に乏しい、授業がわからず落ち着いた生活を送ることができない、家庭学習の時間が少ないなどという本校生徒の実態を変えていくために、学ぶことの楽しさを体験させ、望ましい人間関係を培い、学習意欲を向上させることが重要であると考えた。人間関係が安定することで、自己肯定感が向上し、意欲を持って何事にも取り組める生徒が増え、確かな学力の定着につながり、また、いじめ防止につながると考えたからである。学ぶことの楽しさを体験するとは、学習して「わかった」「できた」という体験をすることであろう。そのためには、生徒みなが意欲を持って授業にのぞめることが大切である。また「わかった」「できた」といえる授業をつくるためには、誰もが「わからない」と言える人権が尊重された環境をつくることが必要である。

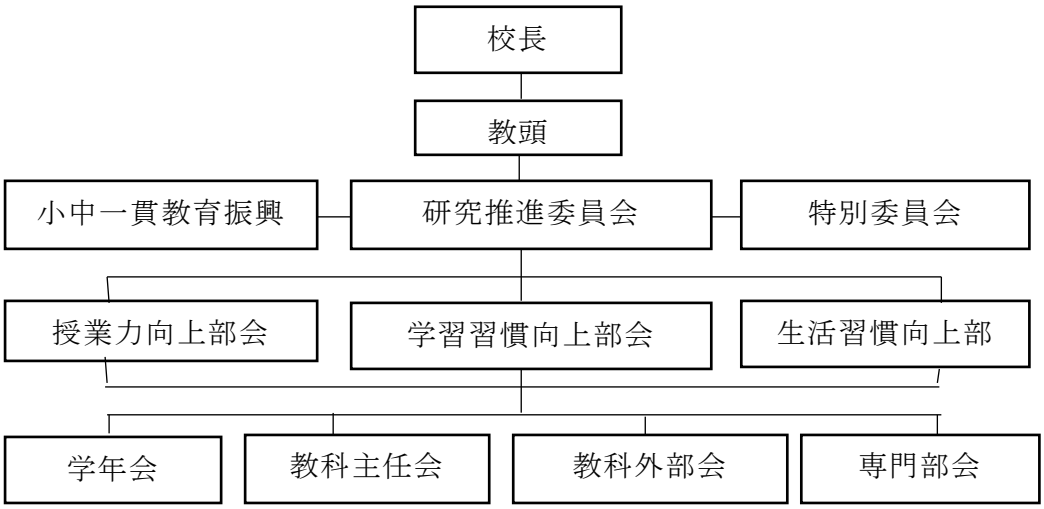
そこで、これらの課題改善に向けて、人権が尊重された学校づくりの視点も参考に、生徒がお互いの関係性を尊重しながら、主体的かつ協働的に授業に参加し、生徒がわかった、できたなど、達成感を得ることができるような授業改善をめざすとともに、自らの道を自らの力で切り拓いていくことができる力を持った生徒を育成していくため、上記研究テーマを設定した。

（３）取り組む人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	
②子供	○
③高齢者	
④障害者	
⑤同和問題	
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	
⑧HIV 感染者・ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	

⑪インターネットによる人権侵害	
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	
⑮その他（　　）	

３．調査研究の推進体制



（関係協力機関）　○鳥取県教育委員会　○鳥取市教育委員会

４．調査研究の内容等

（１）調査研究の内容等

（現状の分析と課題）

本校の生徒の課題として、「自尊感情が低い」「将来への夢や目標がない」「学力が低い」などが挙げられる。平成２９年度の全国学力・学習状況調査の質問紙では「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しているか」、「授業以外に１日どれくらい勉強しているか」「家族と将来について話すか」などの項目が、全国、県よりも１０ポイント以上も低かった。調査からは、平日のテレビ、ネット、ゲームにかなりの時間を費やしている様子も見えた。また、「先生はわかるまで教えてくれるか」に対しても、否定的な回答が非常に多かった。

本校が独自に実施している学校評価アンケート調査でも、「自分にはよいところがある」という項目に対して否定的な回答が約４割、「授業がよくわかる」に対しても否定的な回答が約３割あった。

ここからは、自分に自信を持てず、物事に挑戦することが少なく、授業がわからず、家庭学習をしないという様子が見てとれる。

また一方では、特別な教育的支援を必要とする生徒、発達障がいのある生徒が、文部科学省調査（６．５％（２０１２年））と比較しても同等、もしくはそれ以上の割合で各学級に在籍しているという実態があり、なかなか落ち着いて授業に取り組めない生徒や学級に、多くの職員が苦慮しながら粘り強く指導に当たっている。

（調査研究の内容）

課題解決のためには、

○だれもが「わかった」「できた」といえる授業づくりと、「わからない」と言える人権が尊重された環境づくり

○望ましい人間関係づくりに向けた、生徒間の相互理解を深めるための取組

○誰もが活躍できる場面や、助け合う場面、互いのよさが認められる場面の設定

が重要であると考える。

（実施方法・検証・評価）

３つの研究部会の取組を通して、生徒一人ひとりに自己肯定感を持たせ、自尊感情を高めるとともに、自他の違いを認め、互いに尊重する意欲や態度を育て、自らの可能性を信じ、目標に向かって意欲的に取り組む生徒の育成を図ることで、いじめのない学校づくりにつながるものと考える。

具体的には、以下の方法で研究を推進し、検証・評価を行った。

①授業力向上部会：ユニバーサルデザインを意識した授業研究と職員研修

（ア）授業のユニバーサルデザイン化（以下授業ＵＤ化）を基にした授業づくりの工夫

本年度は、教科指導のねらいの達成及び特別支援教育の視点で授業を工夫することに重点をおき、「場の構造化」（黒板周辺の掲示物を確認）、「時間の構造化」（「めあて」「活動タイム」「ふりかえり」カードの黒板掲示を徹底）、「視覚化」（授業でモニターやミニホワイトボードの活用）、「共有化」（授業に話合い活動を導入）について全職員で確認し、徹底した。

（イ）授業研究会

授業ＵＤ化に関して、京極澄子先生（元 明星大学発達支援研究センター）を講師に迎えて授業研究会を実施し、達成目標の定着や進捗を確認した。１１月研究会では京極先生から、「６月の研究会の時と比べ全体として学校の落ち着きを感じる」・「授業ＵＤ化を始めとする様々な対応が効果を上げているように見える」との評価をいただいた。

全マークのしかた

平成３０年度　授業のUD化に関するアンケート（授業編）

高取市立高市中学校

[氏名　　]

このアンケートは、先生方が現在進められている「授業のユニバーサルデザイン化」について、現状を確認するためのものです。それぞれの質問が、今のあなたにどれくらいあてはまるかを答えてください。

●授業づくりについてお聞きします。

(1)（授業の構成）についてお答えください。

		回答欽			
		全くそうです	ややそうです	あまりそうでない	まったくそうでない
1	教科書・ノート・ファイルなど学習用具の準備について指導している。	0	0	0	0
2	学習の流れを提示し、生徒が見通しを持って学習に取り組めるようにしている	0	0	0	0
3	導入の段階でめあてを提示し、本時の課題にむけいにつなげる工夫をしている。	0	0	0	0
4	分かりやすく全体的に取り組めるような課題設定を行い、解決のための思考の手がかりを与えている。	0	0	0	0
5	展開の段階で、中心となる学習活動を授業全体のバランスと軽重を意識して進めている。	0	0	0	0
6	「活動タイム」で、ペア学習・グループ学習・発表活動など、ねらいに応じて様々な学習の形態を工夫している。	0	0	0	0
7	終末の段階で、「分かった」「できた」という実感感・達成感を実感できるような「振り返り」の工夫をしている。	0	0	0	0

(2)（教師の話し方）・（発問や指示）についてお答えください。

		回答欽			
		全くそうです	ややそうです	あまりそうでない	まったくそうでない（ごめん）
1	生徒の理解を踏め、具体的な表現で話しかけている。	0	0	0	0
2	全体への発問・指示と、個別の声かけ・確認などを適の仕方を工夫している。	0	0	0	0
3	話し始める前に、生徒の興味を引く工夫をしている。（ほつ目標、タイミング、前置きなど）	0	0	0	0
4	生徒に伝わる発問や指示になるように工夫している。（簡潔・具体的な言葉）	0	0	0	0

(3)（板書やノート・ファイル）についてお答えください。

		回答欽			
		全くそうです	ややそうです	あまりそうでない	まったくそうでない（ごめん）
1	板書の書ちの生徒から見えるような文字の大きさ・行間にしている。	0	0	0	0
2	大事な部分が分かるように工夫して示している。（チョークの色、ラインや囲み、矢印や記号の活用など）	0	0	0	0

1/2

授業ＵＤ化アンケート

（ウ）授業ＵＤ化研修会

授業研究会とは別に、授業に関わる全ての職員の本年度の授業ＵＤ化に対する意義と目標の確認及び研究推進への意識の定着を目的として研修会を実施した。その中で、本年度の４点の達成目標を確認するとともに、６月の授業研究会を受けて設定した次年度の目標を提示した。また、本研修会に先駆けて実施した職員アンケート（学級担任編・授業編・個別的配慮編）の結果を、達成率の低かった項目を示したうえで今後の徹底事項を確認した。

（エ）学校評価アンケート（生徒用）・授業評価アンケート（生徒用）による検証及び評価

学校評価アンケート（生徒用）

	項目	肯定的回答（はい・まあまあ）		
		６月	１月	前回比
3	授業にすすんで取り組んでいる	８５．９％	８７．７％	１．８％
19	授業中、先生や友達の話をしっかり聴いている	８６．３％	８８．５％	２．２％
20	授業では自分の考えを伝えたり説明したりできている	６０．１％	６７．２％	７．１％

学校評価アンケート（生徒用）：第二学年抜粋

	項目	肯定的回答（はい・まあまあ）		
		６月	１月	前回比
3	授業にすすんで取り組んでいる	７３．７％	８２．９％	９．２％
19	授業中、先生や友達の話をしっかり聴いている	６７．１％	７８．６％	１１．５％
20	授業では自分の考えを伝えたり説明したりできている	３９．５％	５７．１％	１７．７％

授業評価アンケート（生徒用）

	項目	肯定的回答（はい・どちらかといえばはい）		
		６月	１月	前回比
1	わたしは授業に意欲的に取り組んでいる	９０．８％	９３．２％	２．３％
2	先生はわかりやすく教えてくれる	８６．１％	８７．２％	１．１％
3	先生は授業のめあてをはっきりと伝えてくれる	８６．０％	８６．５％	０．５％
4	授業には自分の考えや意見を伝えたり説明したりする場面がある	７３．０％	７２．５％	－０．５％
5	授業の最後には、学習内容を振り返る場面がある	７２．４％	６８．８％	－３．６％

学校評価アンケート（生徒用）では、全校生徒の集計結果から、授業に対する意欲や姿勢についての項目で「授業にすすんで取り組んでいる」・「授業中、先生や友達の話をしっかり聴いている」のポイントが微増した。また、「授業では自分の考えを伝えたり説明したりできている」のポイントが７．１％向上した。授業ＵＤ化により、共有化の一つとして「活動タイム」を推進する中で、少しずつ効果が出始めているのではないかと考えられる。しかしながら、「授業がよくわかる」(－２．３％)など、現時点ではまだ十分といえる結果に繋がっていない質問項目もあった。

本校の課題としてとらえている第二学年においては、入学当初より学力も低くコミュニケーションスキルも身についていなかったことから、自己肯定感がなかなか持てず仲間とのトラブルや授業に集中できないといった状況が散見された。その中で、一年次後期から授業ＵＤ化の取組を徐々に進め、二年次４月から研究の柱として本格的に「わかった」・「できた」を実感できる授業の構築に重点を置き、教師個々の授業改善に努めた。本年度６月に実施したアンケートでは、新しい学級の中での不安等もあって各項目で肯定的な評価は少なかった。しかし、１月のアンケートでは「授業では先生や友達の話を聴いている」でポイントが１１．５％向上した。また、「授業では自分の考えを伝えたり、説明したりできている」でポイントが１７．７％向上するなど著しい変化が見られた。これは、学年団を中心に全職員が一丸となって授業ＵＤ化に取り組んだ結果の一つであると考えられる。

全校生徒を対象に実施した授業評価アンケート（生徒用）では、教科ごとに授業ＵＤ化に関連する項目について調査した結果、「授業に意欲的に取り組んでいる」のポイントが２．３％増加した。しかし、「授業の最後には、学習内容を振り返る場面がある」の項目でポイントが低下（－３．６％）しており、授業づくりの課題も明らかになった。

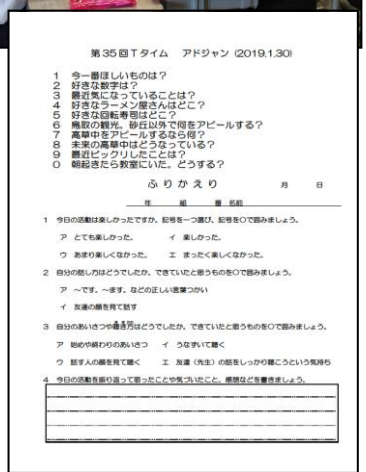
以上を踏まえ、次年度に向けて授業ＵＤ化の達成目標を再度徹底し、さらによくわかる授業づくりや学習環境づくりを進めていきたい。

②学習習慣向上部会

（ア）短時間グループワーク（Ｔタイム）の実施

毎週１０分間(前期は１５分間)の時間を帯で設定し、生徒間で話の仕方（～です。）や話の聴き方（うなずき、視線、表情等）のマナーやルールを体得させることで、自他を尊重する態度を育成するとともに、学習規律の向上を図ることを目的として、短時間グループワーク（Ｔタイム）を実施した。この取組を通して対人スキルを習得し、自己理解や他者理解を深めるとともに自尊感情を高め、良好な人間関係と質の高い学級集団づくりをねらいとした。

Ｔタイムの様



第35回Ｔタイム　アドジャン（2019.1.30）

1　今一番ほしいものは？
2　好きな数字は？
3　最近気になっていることは？
4　好きなラーメン屋さんはどこ？
5　好きな回転寿司はどこ？
6　鳥取の観光。砂丘以外で何をアピールする？
7　高草中をアピールするなら何？
8　未来の高草中はどうなっている？
9　最近ビックリしたことは？
0　朝起きたら教室にいた。どうする？

ふりかえり　　月　日

年　組　番　名前

1　今日の活動は楽しかったですか。記号を一つ選び、記号を○で囲みましょう。
ア　とても楽しかった。　イ　楽しかった。
ウ　あまり楽しくなかった。　エ　まったく楽しくなかった。

2　自分の話し方はどうでしたか。できていたと思うものを○で囲みましょう。
ア　～です。～ます。などの正しい言葉づかい
イ　友達の顔を見て話す

3　自分のあいさつや聞き方はどうでしたか。できていたと思うものを○で囲みましょう。
ア　始めや終わりのあいさつ　イ　うなずいて聞く
ウ　話す人の顔を見て聞く　エ　友達（先生）の話をしっかり聞こうという気持ち

4　今日の活動を振り返って思ったことや気づいたこと。感想などを書きましょう。

Ｓ

その後は、毎週１回のペースで内容も月ごとに「アドジャン」及び「二者択一」

を入れ替えで実施し、１月末現在３５回の実施回数を数えた。

（イ）生徒・教員の感想による検証及び評価

（生徒）

・楽しかった。班の人のことがわかってよかった。
・うなずきながら聴くことができた。フリートークでは、楽しくたくさん質問することができた。
・未来の高草中予想図で、みんなの発表がいろいろあって面白かった。楽しかったのでＴタイムを続けてほしい。
・メンバーを代えてやってみたい。
・メンバーの話をしっかり聴こうという気持ちが高まった。

（教員）

・年度当初と比較してＴタイムを楽しみにしている生徒が増えた。その中で、男女で仲良く話すことができるようになってきたと感じている。
・最近はフリートークにかける時間が長くなった。Ｔタイムをきっかけにクラスのコミュニケーションが深まったことで、お互いのことをもっと知りたいという気持ちの表れであると考えている。

以上の感想を踏まえ、Ｔタイムの取組は「楽しい時間」としての定着に繋がったのではないかと考える。また、実施の目的である生徒間の話し方や聴き方のルールについても、授業の中で話合い活動を仕組む際に、「Ｔタイムのように話し合ってみよう」と投げかけると、以前に比べスムーズに活動できるようになったことから、コミュニケーションのスキルが身に着きつつあるのではないかと考えている。

③生活習慣向上部会

（ア）学校環境適応感尺度（アセス）検査の実施

学校環境適応感尺度（アセス）は、生徒本人が感じているＳＯＳの度合いを測り、教師の観察やその他のデータと照らし合わせることで、より的確な支援を構築することを目的として、昨年までのＱ－Ｕ検査に代わるものとして本年度より実施している。アセスは、生徒の適応感全体を、包括的かつ多面的に判断できる尺度であり、得られた結果のうち「学級内分布表」及び「個人特性票」を用いてアセス検討会（職員研修）を開催した。なお、本年度はアセス検査を６月と１１月の２回実施し、そこで生徒の変容を探った。分析を進める中で、講師より全体の傾向として、「向社会的スキル」の低さが指摘され、全教職員で協議し、生徒相互の心の育成につながる取組を運動会や文化祭などの学校行事と絡めて進めることにし、Ｂｅｉｎｇ（ビーイング）（行事に向けて個人目標や達成するための方策等を共有する）やメッセージボード（行事等での活躍に対してありがとうの言葉等を送る）の取組など心の育成を進めた。

（イ）学校評価アンケート（生徒用）による検証及び評価

	項目	肯定的評価（はい・まあまあ）		
		６月	１月	前回比
2	みんなで（協力して）何かをするのは楽しい	８２．９％	８８．９％	６．０％
6	家族は自分のことをわかってくれている	８３．７％	９１．８％	８．２％
7	自分にはよいところがある	６２．７％	６９．３％	６．５％
9	将来の夢や目標を持っている	６８．８％	７４．６％	５．８％
21	授業では自分のクラスは発表しやすい雰囲気がある	７４．９％	８１．６％	６．７％

学校評価アンケート（生徒用）では、「みんなで（協力して）何かをするのは楽しい」・「授業では自分のクラスは発表しやすい雰囲気がある」など、集団の中での関わりやクラスや班での発

言しやすい風土に関する項目でポイントが向上した。また、「家族は自分のことをわかってくれている」・「自分にはよいところがある」・「将来の夢や目標を持っている」など、自己肯定感に関する項目についても明らかにポイントが向上した。

授業ＵＤ化に加え、短時間グループワーク（Ｔタイム）の取組、さらに、「向社会性スキル」及び「友人サポート」を向上させる取組として、上記のビーイングやメッセージカード等の、生徒が互いに認め合う活動や関わる活動を総合的に実施したことにより、学校行事に関しては、学校全体や学級での生徒集団の雰囲気が、一つの目標に向かって高まっていく結果につながったのではないかと考える。また、人間関係づくりの側面からも、上記の活動を通して自己理解や他者理解が深まることで、集団の中において「安心して生活できる」・「安全に生活できる」空間が醸成されつつあるのではないかと考えている。

（２）実施結果

月　日	内　　容	備　考
４月　４日	・Ｔタイム職員研修	参加者２８人
４月１１日	・Ｔタイムオリエンテーション	全校生徒対象
４月１６日	・第１回「人権教育研究推進事業」連絡協議会 県教育委員会人権教育課　森田泰弘係長、山本裕児指導主事 東部教育局　平野靖博指導主事 市教育委員会学校教育課　中村奈緒主幹兼指導主事 福田美奈主幹兼指導主事	参加者　１人
５月　１日	・第１回研究推進委員会 （本年度の研究推進体制について協議・検討）	参加者　６人
５月１６日	・今年度の校内研修について職員会で提案	参加者２６人
５月２１日	・アセス職員研修会　　講師 久岡賀代子 先生 ・第１回アセス検査	参加者２６人
６月１１日	・第１回学校評価アンケート（～６月１５日） ・授業ＵＤ化校内研修会 講師 西川公一 先生（鳥取南中学校）	全校生徒対象 保護者対象
６月１３日	・第１回校内授業研究会 授業者 岡真奈美教諭 指導助言 京極澄子先生(元 明星大学発達支援研究センター) 県教育委員会人権教育課　山本裕児指導主事 東部教育局　平野靖博指導主事 鳥取市教育委員会学校教育課　福田美奈主幹兼指導主事	参加者２５人
６月１４日	・アセス検討会　指導助言 久岡賀代子 先生 ・授業ＵＤ化校内研修会（講師 研究主任） ・第２回研究推進委員会 （第２回校内授業研究会の開催について協議・検討） ・第２回校内授業研究会　授業者 地原 昌裕 教諭 ・第２回学校評価アンケート（～１０月４日） ・第３回研究推進委員会 （学力向上の取組について協議・検討） ・授業ＵＤ化に対応した学習指導案フォーマットを職員	参加者３１人 全校生徒対象 参加者２６人 参加者２６人 参加者１８人 参加者　６人 参加者２４人 保護者対象 参加者　６人 参加者２５人 参加者　６人
７月　２日		
７月２４日		
８月２１日		
８月２９日		
９月１４日		
９月２８日		
１０月　１日		
１０月１７日		
１０月２９日		
１１月　７日		

１１月　９日	会で提案	全校生徒対象
１１月１３日	・第４回研究推進委員会 （第３回校内授業研究会の開催について協議・検討） ・第２回いじめと心のアンケート ・第２回アセス検査 ・第３回校内授業研究会　授業者 山根佳代教諭	全校生徒対象 参加者２６人
１１月２８日	指導助言 京極澄子先生(元 明星大学発達支援研究センター)	全教職員
１２月　８日	県教育委員会人権教育課　山本裕児指導主事 東部教育局　平野靖博指導主事 鳥取市教育委員会学校教育課　福田美奈主幹兼指導主事	参加者６人
１２月１２日		参加者２４人
１月１６日	・東部教育局訪問 （全職員が授業ＵＤ化に対応した指導案を作成）	参加者２１人
１月２１日	・先進校視察	保護者対象
１月３０日	授業ＵＤ化サミット in 阿南（徳島県阿南市立羽ノ浦中学校）	全教職員
２月１２日	参加者 地原昌裕教諭	
２月１３日	・第２回アセス検討会　指導助言 久岡賀代子先生	
２月１４日	・先進校視察(授業ＵＤ化サミット in 阿南)について職員会で報告	参加者　１人
予定	・第３回学校評価アンケート（～１月２５日） ・研究部会反省会（授業力向上部会･学習習慣向上部会･生活習慣向上部会） ・校内授業研究会（英語） ・校内授業研究会（国語） ・人権教育研究推進事業報告会 ・第２回「人権教育研究推進事業」連絡協議会 ・第５回研究推進委員会（取組の成果とまとめ） ・校内研修会（研究のまとめ、次年度に向けて）	